

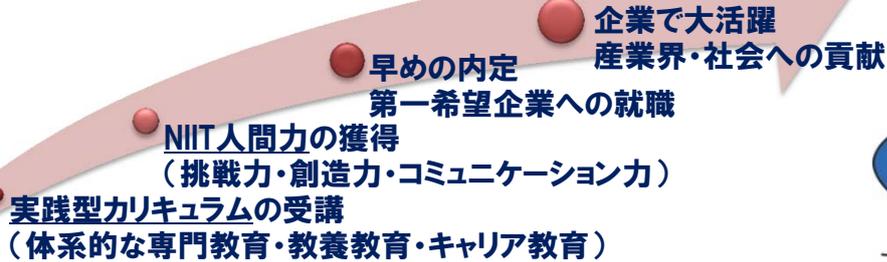
実践型カリキュラムによる職業人育成事業

～産学連携を中心とした実践型カリキュラム開発による地域産業界を支える技術者育成プログラム～

新潟県内で4大学、私立大学単独ではただ1校の採択。



I. 新潟工科大学が、この教育で目指すもの



II. 就業力育成の背景

II-1. 建学の精神

ものづくりの視点を重視した工学教育を通じて、未知の分野に果敢に挑戦する創造性豊かな人材を育成する。

II-2. 近年の社会情勢

近年、将来の夢や目的を持たずに入学し、ただ漠然と大学生活を送る学生が増加しています。そのため、就職活動をする段階においても、やりたい仕事が見つからず、就職活動における出遅れや雇用のミスマッチが起こっています。これらを解消するため、本学の設立の経緯を活かし、従来の教育科目以外に、産業界と連携する科目を開発し、社会に出てから役立つ専門力と人間力(学士力)を養うための教育体系を構築します。

III. 新潟工科大学の「キャリア教育トータルシステム」

III-1. 企業人が計画し、教育する「キャリア科目」群

現場の視点を重視した幅広い職業人育成のための体系的な科目を企業の実務家と共に開発します。

また、職業教育の観点からキャリア形成に関する科目を積極的に開発・導入します。

III-2. 学生一人一人のデータを活用し、きめ細かく指導するための「キャリアポートフォリオ」情報システム

入学から卒業までの大学における活動の内容をデータベースに蓄積し、体系的な学生指導を可能にします。

III-3. 学生が自らの成長を実感できる「NIIT人間力評価システム」

入学から卒業までの大学における活動を振り返らせ、自らの成長を実感させるための仕組みです。

IV. 実践型カリキュラムのねらいと内容

●がある科目は、必修科目です。

	1年次	2年次	3年次	4年次
年次目標	学生自身が将来の目標を描き、卒業後の進路や職業を模索し考える	自分を見つめ、将来の希望進路に向けて準備を始める	自己分析から希望業界の研究へと自らの希望進路を固める	実践の時期
科目群	自らの生き方について展望を持ち、社会的に求められる能力を習得する科目	●自らのキャリアデザイン ●コミュニケーション・スキル	プレゼンテーション実習 ビジネス実務	
	挑戦的・創造的な課題の解決に取り組む科目	●新入生のための少人数による導入教育科目 企業人によるワークショップ	自己分析実習 インターンシップ	●卒業研究
	業界・企業への理解を深める科目	PBL (Project Based Learning ; 課題解決型学習)	業界研究	●企業人講演

IV-1. 新潟県内上場企業（一正蒲鉾株式会社）のベテラン人事担当者を特任教授に！



○カリキュラム策定
○キャリア科目担当

職業人として自立できる能力を備えた学生に育てます

IV-2. PBL (Project Based Learning) を実施し、NIIT人間力育成

海浜清掃ロボット開発



自然エネルギー（雪室）
実証実験

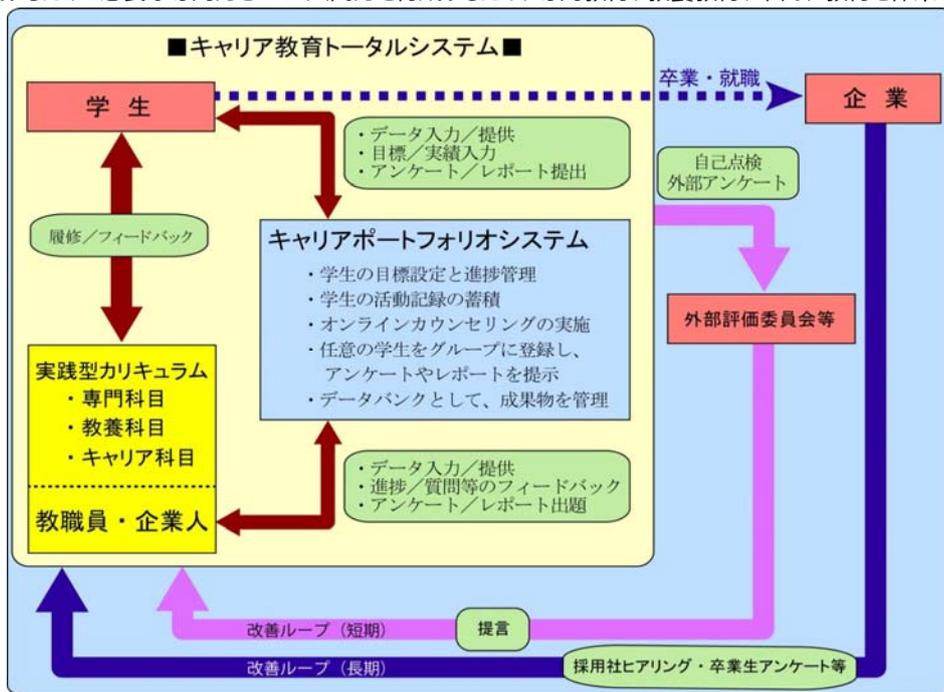


風の流れを見る機械の製作



【キャリア教育トータルシステムとは】

就業するために必要な専門力とNIIT人間力を育成するため、専門教育、教養教育、キャリア教育を体系的に行うための仕組み。



【実践型カリキュラムの理念】

1. キャリアに対する意識を高め、夢と信念をもって強く生きて行ける人財を育成する。
2. さまざまな業種・職種の仕事について理解させ、自己の能力を考え、個性を活かす方法を学ばせ、将来に向けてのキャリアデザインが描ける力を習得させる。
3. 過去の経験から得た自己のスキルを確認させ、新たな自己発見を通じて、就職までの計画、卒業後の目標を考えさせ、高い就職意欲につながる考え方を養う。
4. 自己の可能性について、未知の自分探しに積極的に挑戦する意欲を持たせ、目標の達成に向けてのアクションプランを作成させる。
5. グループ学習を通じて、キャリアアップできる人財像を考察させ、主体的にキャリア形成に取り組む姿勢を養う。

【産学連携によるカリキュラムの開発】

1. 実践型カリキュラムの理念を実現できる科目を、企業の実務家と連携して、作成する。
2. 外部評価委員会の外部評価や卒業生が就職した企業への採用社ヒアリングを行い、企業に求められる能力をカリキュラムに反映する。

【NIIT人間力とは】

「挑戦力」

- ・高い目標に向かってチャレンジする行動力
- ・失敗を恐れず、トライ＆エラーの積み重ねと努力の精神

「創造力」

- ・既成概念にとらわれない発想
- ・課題を発見し、新しい解決方法を考える力

「コミュニケーション力」

- ・傾聴力（相手の話を聞くことができる）
- ・理解判断力（相手の話を理解し、判断できる）
- ・説得力（説明スキルと知識をもつこと）
- ・情報活用力（パソコンやインターネットを活用することができる）
- ・トータルコミュニケーション力（読み、書き、対話すること）

【PBLとは】

PBLとは、Project Based Learning（課題解決型学習）の略語である。教員が学生に課題（例：研究開発、装置開発、実験等）を提供し、その課題に対して学生自身が主体的・実践的に課題解決に取り組むことで、その過程で学生自ら様々な解決手法・技法・プレゼンテーション能力等を学習する教育手法である。

【NIIT人間力評価システムとは】

1. 評価の目的

学生に対して就業力育成事業を通じて、どれくらい人間力が向上したかを、可視化して、気づいてもらい、その後の大学生活に対して、自己効力感を持ってもらう。

2. 評価の基準

外部企業と、NIIT人間力チェック票を作成。各項目セルフチェック票の評価レベルを9段階に設定し、大学在籍期間に到達できる標準的なレベルを9段階の「5」に設定する。

3. 評価の種類

自己評価と他者評価（教員、職員、企業人、学生どうし等）

4. 評価結果の活用

人間力評価シートをポートフォリオと連動させ、評価結果を蓄積する。これにより、学生は自己の成長を実感できるようになるとともに、教員と学生とが情報を共有し、今後の学習計画の指針とすることができる。

就業力育成支援事業URL

<http://www.niit.ac.jp/SHUGYO/index.html>